

美郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略



令和7年1月改定

島根県美郷町

はじめに

国は、人口減少と地域経済の縮小を克服し、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。地方創生は、東京圏への過度な人口集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保していこうとするものです。

島根県は人口減少に打ち勝ち、将来にわたって人口を安定的に推移させるため、令和2年3月に「島根創生計画」を策定し、島根に愛着と誇りをもって幸せに暮らし続けることができる環境づくりを目指しています。

美郷町においては、平成17年の国勢調査で人口減少率が県下ワーストの10.8%となったことを重く受け止め、若者定住住宅の整備や保育料、給食費の軽減や公営塾の開設、定住ポイント等、定住と子育て支援に力を入れた施策を実施してきました。加えて、町の認知度、注目度向上のために積極的に魅力発信を行い、町外との交流を強化するとともに、山くじらやバリ島マス村との交流など美郷町の強みを活かした取り組みを現在も進めています。

また、新型コロナウイルス感染症は、地域の経済や生活に大きな影響を与え、サテライトオフィスやリモートワーク等の働き方を考えるきっかけとなり、地方への移住・定着の新しいひとの流れをつくっています。

国や県の動向を踏まえ、住民代表、産業界、教育機関、金融機関、労働団体等各界のご意見を聞きながら、地域の資源を再評価し、少子高齢化の真ただ中にある地域を、持続可能な活力ある未来を創っていくための、美郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しました。

1. 総合戦略の基本的な考え方

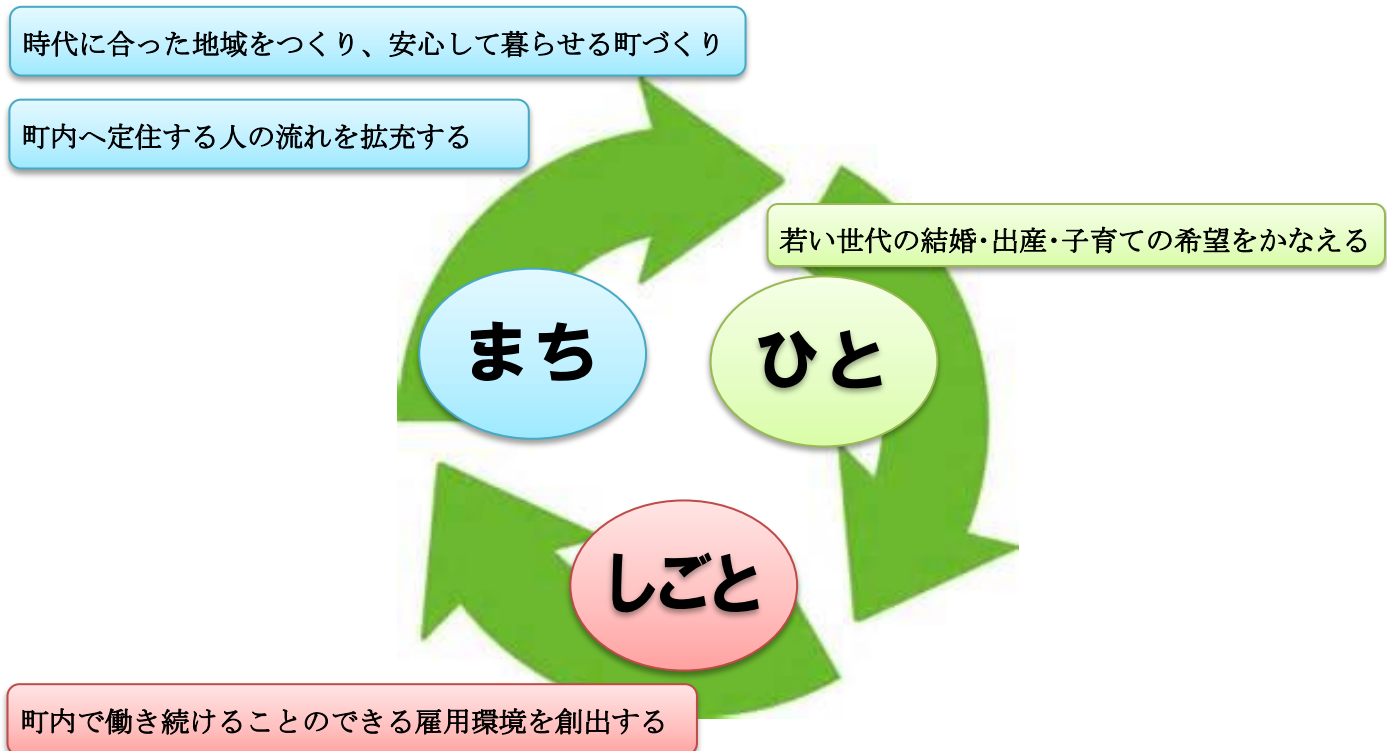
日本全体が人口減少時代へと移行する中、国立社会保障・人口問題研究所などの公表している将来人口推計をみても、美郷町の人口が減少し続けることは避けられません。

一方、人口構成をみても、少子化や高齢化が一層進むことが予測され、本町を担ってきた生産年齢人口に属する世代が減少し、地域の産業活力、社会活力の低下にも影響が及ぶものと考えられ、総合的で包括的な対策を講じる事が喫緊の課題となっています。

今後、本町において、出生率の高い水準を維持するとともに、子どもを産み育てる親世代の人口減少に歯止めをかけ、望ましい世代構成を実現させるため、長期的な取り組みを進めることが必要となります。

また、本町からの転出抑制を図り、定住してもらうため、美郷が好きで住み続けたいという意識の醸成のほか、雇用の場や住まいの確保、結婚に向けた出会いの場の提供、出産や子育てに対する支援など、個々の連携した取り組みを推進していきます。

こうした取り組みについては、今後も検証を実施する中で、問題点を洗い出し、人口問題の対策における効果の上がる事業として、縮小・継続・拡大・改善及び新規事業の実施など柔軟に対応していきます。



2. 戦略の基本目標と施策（令和3年度～7年度）

【基本目標1】

活力ある産業の創出と雇用を促進する

美郷町では、少子化や定住に係る様々な施策に取り組んできましたが、雇用の場を確保することが求められています。また、地場産業を守るための事業承継を軸とした取り組みを進めるとともに、地域の資源を活かした新産業の創出も推進します。

<目標>

- ☆ 町外からの企業参入数 5事業者
- ☆ 観光動態調査の宿泊者数 13,000人（現状値 H29：6,722人）
- ☆ 温泉施設の入込客数 25,500人（現状値 H29：7,524人）
- ☆ 新規雇用就職者数（新規学卒者） 15人
- ☆ サテライトオフィス県外利用者割合 30%
- ☆ 三瓶在来そば栽培面積 25ha（現状値 R2：6.4ha）
- ☆ 薬用作物栽培面積 8.6ha（現状値 R2：3.2ha）

【基本目標2】

町内へ定住する人の流れを拡充する

U・Iターン者が「美郷に来てよかった！」と実感できるような取り組みと地域活動等に継続的に参加し、美郷町への関わりをもつ関係人口及び活動人口の拡大を推進します。

<目標>

- ☆ U・Iターン施策による受入数 50人（現状値 R1：19人）
- ☆ みさと暮らし応援ネット閲覧数 240,000件（現状値 R2：90,000件）
- ☆ 美郷バレー構想による包括連携協定数 10件（現状値 R2：8件）
- ☆ バリ島マス村からの技能実習生の受入数 15人

【基本目標3】

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

美郷町の合計特殊出生率は県内でも高い水準を維持しており、子育てしやすい環境が一定程度整っていますが、子育てに不安を感じる保護者も少なくありません。地域に魅力を感じ、更に結婚、子育てしやすい総合的な環境をつくります。

<目標>

- ☆ 育児の相談相手がいる保護者の割合 100%（現状値 R1：92.3%）

【基本目標4】

時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する

美郷町の人口減少は、少子高齢化による自然減少による影響が大きく、地域活動の継続や地域コミュニティの維持が困難になることが予想されます。持続可能な地域運営のため小さな拠点づくりを推進し、地域活動の課題解決に向けた取り組みを進めます。

<目標>

- ☆ 小さな拠点づくり計画・協議等実施地域数
13 地域（全連合自治会・現状値 R1：7 地域）
- ☆ 地域での生活支援を実施している連合自治会数
8 地域（連合自治会単位・現状値 R2：3 地域）
- ☆ 公民館の「地域課題解決学習」の実施回数 16 回（現状値 R1：10 回）
- ☆ 自主防災組織（連合自治会）での地区防災計画策定数
9 地域（現状値 R2：1 地域）
- ☆ 美郷町公共交通ビジョンの策定

【基本目標5】

先進技術を活かした新たな美郷を創造する

医療、交通、社会生活等未来技術の発展は目覚ましいものがあります。

高齢化や人の移動、物流の課題に直面する今日、持続可能なまちづくりを進めていくうえで、先進技術は必要不可欠になります。今後、予測される課題にも対応していくために、最新の技術を見極めながら利便性向上に資する取り組みを進めます。

<目標>

- ☆ ドローンによる物流ネットワークの構築 5 年後導入
- ☆ IP 告知端末等を使った遠隔診療システム
5 年後システム構築・導入
- ☆ 買い物支援サービス導入の検討
5 年後システム構築・導入

基本目標 1 活力ある産業の創出と雇用を促進する

1. 新産業の創出と雇用の促進

【現状と課題】

美郷町では産業雇用対策を積極的に支援し、地域産業に対して一定の成果はあったものの、事業主の高齢化が進み新たな産業の創出については厳しい状況にあります。しかしながら新型コロナウイルス感染症により、大都市の「過密」のデメリットが顕在化し、その対極にある「過疎」の地方に目が向けられています。これまで人口減少や過疎に苦しんできた典型的な中山間過疎地域である美郷町にとっては、大きなチャンスが到来したと考えられます。こうした中、物流や商圈など条件不利地である美郷町においては、リスクを恐れず新事業に挑戦する人・事業者にとって魅力を感じてもらえる仕組みの構築や支援が重要です。美郷町の強みを活かした起業支援や第二創業といわれる新事業の展開を支援するとともに、町内での雇用の場の確保、また外国人技能実習生の受け入れも含めた労働力の確保を進めていく必要があります。

【取り組みの方向】

(1) 起業の支援

美郷町の強みや新技術を活かしたテーマを設定したビジネスプランコンテストを開催し、起業後も伴走支援できる取り組みを展開します。

(2) 新産業づくりの推進と進出企業支援

町内サテライトオフィスの利活用も含めた、町外からの企業進出を支援します。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
町外からの企業参入数	R3～R7 年度 5 事業者	-
サテライトオフィス県外利用者割合	R3～R7 年度 30%	-

2. 農林業の推進

【現状と課題】

高齢化や担い手不足による耕作放棄地の拡大、鳥獣被害による耕作意欲の減退が深刻なものになっています。畜産業においては、中核的農家の規模拡大により飼養頭数は増加しているものの、高齢化により飼養農家等が減少しています。林業は、木材価格の低迷や担い手不足が深刻化するとともに、山林の荒廃が甚大な自然災害を引き起こす要因として懸念されています。

【取り組みの方向】

(1) 生産体制の構築

集落営農組織の組織強化や広域連携の推進により持続可能な組織づくりを支援します。また、ファームサポート美郷の充実を図り集落営農組織のない地域の農地を保全します。

(2) 農地の有効利用

遊休農地対策や耕作放棄地対策として、三瓶在来そばや薬用作物栽培の取り組みを支援するとともに特産化を図ります。

(3) 農業従事者担い手の確保及び育成

①農業に従事しようとする者、または従事している青年等に対して、農業の担い手となる者の研修や仲間づくりを支援しながら、優れた農業従事者の確保及び育成に努めます。

②ミニトマトの栽培に取り組もうとする認定新規就農者に対して、リース方式によるパイプハウスの整備に対して支援を行います。

(4) 森林整備の促進

①森林環境譲与税を活用した私有林森林整備の促進を支援します。

②林業従事者の人材育成や担い手の確保に努めます。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
集落営農法人化数	R3～R7 年度 10 法人	R2 年度 5 法人
三瓶在来そば栽培面積	R3～R7 年度 25 ha	R2 年度 6.4 ha
薬用作物栽培面積	R3～R7 年度 8.6 ha	R2 年度 3.2 ha
新規就農者数	R3～R7 年度 18 経営体	R2 年度 8 経営体

3. 商工業の振興

【現状と課題】

人口減少と高齢化、購買スタイルの多様化等を原因として、地元購買率の低下が進み、地域経済は縮小傾向にあります。特に飲食・宿泊業、小売業が影響を受け、住民生活の利便性も損なうといった負のスパイラルとなっています。地域内消費の拡大や新たな事業の取り組みが喫緊の課題です。

また事業主の高齢化が進む中で、特に小規模事業所の事業承継が課題となっています。

【取り組みの方向】

(1) 商業基盤の整備

商工会と連携し、経営改善、事業の安定化に向けた支援を実施します。また、地域が必要とする業種の事業者誘致や空き店舗の活用、更には中心市街地等の活性化の取り組みにより、新たなにぎわいの場を創出するなど地域商業環境の改善を図ります。

(2) 町内消費の誘導

キャッシュレス決済の仕組みが急速に広まる今日、町民カード「みさとと。Pay」の活用による町内消費の拡大推進や買い物支援事業に取り組み、利便性の高い商業環境の整備を推進します。

(3) 地場産業の事業承継と支援

商工会とともに事業承継の円滑化に向けた枠組みの構築を強化していきます。親族や親族外による事業承継だけでなく、M&A（※1）も含め検討していきます。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
みさとと。Pay 利用金額	R3～R7 年度 300,000 千円	-
買い物支援事業利用件数	R3～R7 年度 1,200 件	-

(※1) M&A (エムアンドエー) … 『Mergers (合併) and Acquisitions (買収)』の略。企業の合併買収のことで、2つ以上の会社の一つになったり (合併)、ある会社が他の会社を買ったりすること (買収) です。

4. 観光の振興

【現状と課題】

美郷町の主要施設における観光入込客数及び宿泊者数は、旧三江線の廃線に伴う観光特需が終息したことや一部の宿泊施設や飲食店の廃業も要因となり減少傾向にあります。

しかし、広域観光の推進や観光協会による着地型体験プログラムの実施等により、町内外の交流人口の拡大が期待されており、地域資源を活用した滞在型観光へのシフトが課題となっています。

【取り組みの方向】

(1) 観光施設の魅力発信

地域内の主要施設における誘客を促進する事業を推進します。

(2) 観光資源の活用

美郷町を体験してもらうためのプログラムを充実させ、美郷町の人と資源の魅力を発信します。

(3) 広域観光の推進

周辺自治体と連携した広域観光連携や地域に根差したワイナリー・リゾート・タウン構想による滞在型の観光を推進します。

(4) 美肌県美肌町の推進

温泉や雲海等の様々な美肌コンテンツを活かした観光プログラムづくりを県や関係機関と連携して取り組みます。

(5) 石見神楽の魅力発信

美郷町を代表する伝統芸能である「石見神楽」の魅力を発信するための取り組みを地域団体と連携して推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
観光動態調査の宿泊者数	R3～R7年度 13,000人	H29年度 6,722人
温泉施設の入込客数	R3～R7年度 25,500人	H29年度 7,524人

5. 働きやすい就労環境の充実

【現状と課題】

生まれ育った場所または移住した場所に住みながら働くことが理想ですが、町内に雇用の場が限られており、やむを得ず町外へ通勤している町民も多くいます。

【取り組みの方向】

(1) 雇用促進のための支援

町民、特に若い世代を町内事業所で正規従業員として雇用している事業所に対して支援を行います。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
対象事業所における新規雇用就職者数 (新規学卒者)	R3～R7 年度 15 人	-

6. 産業振興に必要な社会資本整備

【現状と課題】

美郷町の令和2年度末に町道道路改良率は58.8%で、観光や農林業などの産業振興に必要な道路等の社会資本整備の推進が必要です。

【取り組みの方向】

(1) 道路網の構築

国道、県道の道路改良の促進を、国や県に働きかけます。

(2) 生活基盤の整備

物流の安定的な運用確保のため、町道等の安全安心な道路整備を推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
375号、川本波多線の改良 済延長	R3～R7年度 40.2km	R2年度 39.6km
町道改良率	R3～R7年度 60.1%	R2年度 58.8%

【基本目標2】 町内へ定住する人の流れを拡充する

1. 美郷町への移住及び定住の促進

【現状と課題】

美郷町のような過疎地域は人口減少が進む一方であり、人口推移を辿ると2020年4,384人、以降5年ごとの推移は、2025年3,905人、2030年3,467人と想定され、人口減少率が最も高いと想定されているのは美郷町という厳しい統計があります。

このことを踏まえて、2008年より若者定住住宅の整備を行い、U・Iターン及び町内移動者を含め、子どものいる若者世帯の増加に繋がりました。その他、子育て環境づくりや様々な定住施策に関する取り組みも行ってきました。しかし、子どものいる若者世帯に特化し強化したこともあり、単身者や夫婦のみの世帯の移住及び定住に課題があったことも否めません。

また、新型コロナウイルス感染症は、結果として働き方も含めて地方への移住等の関心を高めることに繋がりました。この指向の高まりに対応する取り組みも必要になってきました。

【取り組みの方向】

(1) 住宅の整備

若者定住を促進する住宅整備や空き家対策など、住民にとって暮らしやすい地域生活環境基盤の向上を図ります。

(2) 移住及び定住希望者向けの情報発信の充実

美郷町の魅力発信や移住・定住に関する情報をホームページ、SNS（※2）等を活用して積極的かつ継続的な情報発信を図ります。

(3) 空き家バンクへの住宅情報の提供体制整備

移住を考えている人の後押しをするため、空き家の紹介ができるように空き家バンクへの登録充実を図ります。また、空き家バンクによる住宅情報の提供を積極的に行っていきます。

(4) 移住体験による移住促進

移住を考えている人の定住を促進するため、移住体験住宅の活用を推進します。

(5) 定住新築住宅に対する補助

定住して持ち家を持ちたい若年層にとって、住宅の新築や増築は経済的なハードルが高く、建築後の支援も必要であるため、対象となる住宅の固定資産税に相当する額を補助します。

(6) 定住者用住宅改修支援事業

町内に住所を有する40歳以下の方、U・Iターン者の住宅にかかる改修費用の助成を行うことで、定住促進を図ります。

(7) 民間活力による住居確保対策

周辺市町への通勤立地及び若者等の取り込みを考えた住居確保を、民間活力を導入した賃貸住宅建設支援補助事業を推進し、若者の定住促進を図ります。

(8) 住実暮らし新築等住宅支援事業

若者やU・Iターン者が美郷に住みたい・住み続けたいという希望を叶えるため

の新築住宅の補助を行います。新築住宅建設に付随して空き家等の解体、土地購入をする際の補助を行い、動きのなかった家や土地が再び活用できるよう進めていきます。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
U・Iターン施策による受入数	R3～R7年度 50人	R1年度 19人
空き家バンク登録件数	R3～R7年度 50件	R1年度 11件
移住体験住宅の利用世帯数	R3～R7年度 20世帯	R1年度 4世帯
住宅の建設・建替戸数	R3～R7年度 15戸	R2年度 1戸

(※2) SNS…ソーシャル・ネットワークング・サービスの略。インターネットを通じて、多くの人と情報交換ができるサービス。代表的なものにFacebookやTwitterがあります。

2. 美郷町の魅力を発信する

【現状と課題】

魅力的な地域資源や定住施策、美郷バレー構想など町の強みや注力事業の発信を行っているが、多様な手法を活用し今後も効果的に情報発信していくことが必要です。

【取り組みの方向】

(1) 公式ホームページ等の充実の継続

公式ホームページの訪問者にとって使いやすく、訪れやすいつくりを継続し、またホームページ内におけるバリ島マス村の特設サイトや美郷バレー構想の特設サイト、ミニトマト新規就農特設サイトの町の強みや注力事業の発信を行います。

(2) SNSを活かした多様な手法による情報発信力の強化

美郷町の魅力や「みさと暮らし応援ネット」等の移住・定住に関する情報をホームページのみならず、Facebook や Twitter、LINE、YouTube を活用して積極的に発信します。

(3) 美郷町のファンの取り込み

「みさとと。」のホームページを見て、まずは町に関心を持ち、美郷町を訪れて「みさとと。」の風景や物語を感じてもらえるきっかけとして、美郷町のファンになってもらう取り組みを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
公式ホームページ閲覧数	R3～R7 年度 75,000PV/月	R2 年度 10,000PV/月
移住・定住サイト閲覧数	R3～R7 年度 240,000 件	R2 年度 90,000 件

3. ふるさと教育の推進

【現状と課題】

美郷町の豊かな自然や人、地域に囲まれ、生まれ育ったふるさとに残り大切にしたいという思いがあっても、地域の将来と向き合う機会がないまま、子どもたちは大きくなり、結果美郷町を離れ都市部に生活の場を求めています。

子どもの頃から、ふるさとに愛着を持ち、ふるさとのために貢献しようとする人を育てていく必要があります。

【取り組みの方向】

(1) 美郷町への愛着と理解の醸成を深める取り組み

美郷町の豊かな自然や地域の人材等の恵まれた教育資源に積極的に接する機会を通じて、ふるさとへの理解や関心を高め、地域を支える次世代の人材を育成します。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
将来美郷町に住みたい (帰ってきたい) と答える生徒の割合 (中学校3年生)	R3～R7年度 80.0%	-

4. 関係人口の増加と活動人口の拡大

【現状と課題】

これまでも、美郷町出身者やふるさと納税者、観光客等の個人だけでなく、サテライトオフィスの整備や研究機関連携等、関係人口の増加に繋がる取り組みを進めてきました。

更に地域活動の支援で関わりを持つ活動人口（※3）の取り組みを進め、将来的な人口社会増の確保を図ります。

【取り組みの方向】

(1) ふるさと納税寄附件数の増加

美郷の魅力ある返礼品等を増やし、寄附件数の増加を目指します。

(2) 美郷バレーによる関係人口（活動人口）の拡大

山くじらブランド等のノウハウを蓄積しながら、大学や研究機関、企業等の包括連携協定や、研究実証フィールドとしての環境づくりを行います。

(3) インドネシアバリ島マス村からの技能実習生の受け入れ

インドネシアバリ島マス村からの技能実習生を町内事業所等で受け入れ、農業、建設業、福祉分野等の人手不足解消を図ります。

(4) インドネシアバリ島マス村との民間交流の促進

バリ島関連のSNS（「ぱりとと。」）による情報発信を行うとともに、美郷町国際友好協会をはじめとした民間団体等に対して活動を支援します。

(5) インドネシアバリ島との文化交流の促進

インドネシアバリ島の固有の文化に触れる機会として、ガムラン楽器等の演奏会を開催して、人の交流とともに文化の交流も促進します。

(6) 町内活動の参加を促し、滞在人口、活動人口の拡大を進めるための、活動拠点施設を整備します。

重要業績評価指標（KPI）	目標値	現状値
ふるさと納税寄附件数	R3～R7年度 10,000件	R1年度 497件
美郷バレー構想による包括連携協定数	R3～R7年度 10件	R2年度 8件
バリ島マス村からの技能実習生の受入数	R3～R7年度 15人	R2年度 0人
バリ島関連のSNS（「ぱりとと。」）のフォロワー数	R3～R7年度 200件	R2年度 75件
バリ文化振興を目的とした演奏会等の開催	R3～R7年度 2回	-

（※3）活動人口…地域に対する誇りや自負心を持ち、積極的に地域づくりのために活動する人たちを指します。

【基本目標3】若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

1. 妊娠・出産・育児までの総合的な支援体制の整備

【現状と課題】

美郷町においても少子化や核家族化により、地域で母親や保護者が子育てについて気軽に相談できる機会が少なくなっています。また、医療機関も遠いために受診や通院も妊産婦の負担が大きい環境にあります。妊娠・出産・子育てについての負担や不安を解消し、若い世代が希望どおりに安心して、子どもを産み、育てることができる環境整備を更に進めていく必要があります。

【取り組みの方向】

(1) ICT（情報通信技術）を活用した子育て相談環境の整備

緊急時自宅でも相談できる小児科・産婦人科オンライン相談事業の活用により、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援を行います。

(2) 産後ケア事業の実施

産後に家庭等の支援が得られない母親と乳児に在宅助産師や保健師が訪問し、授乳指導、乳房ケア、育児相談等を提供します。

(3) 子育てサポーター制度の整備

出産後、家事や育児などの支援が必要な家庭に子育ての経験豊富な子育てサポーターを派遣し、子育て中の家庭を支援します。

(4) 子どもの健やかな成長と自立に向けた支援

子どもの発達で気になることがあった場合など、発達相談体制を充実させ自立に向けた支援を実施します。

(5) 子育て世代が子どもと安心して集まることができ、楽しいひと時を過ごすことのできる場所を提供します。

重要業績評価指標（KPI）	目標値	現状値
育児の相談相手がいる保護者の割合	R3～R7年度 100%	R1年度 92.3%

2. 子育てしやすい学校教育と社会教育環境の充実

【現状と課題】

経済的に不安定な家庭や発達に課題を抱えた子どもが増加するなど、子育て世帯に経済的・精神的負担が生じています。

美郷町の将来を担う子どもたちの健やかで豊かな心身を育てていくために、これまで行ってきた給食費の軽減や公営塾の開設等、教育環境充実のための施策を継続します。

【取り組みの方向】

(1) 学校給食費の軽減

食材費の約30%補助を継続します。

(2) 通学バス等の補助

通学バス等にかかる費用の全額補助を継続します。

(3) 子どもの居場所づくり

放課後子ども教室、放課後児童クラブを連携して無料で実施します。また、子育て支援のスタッフとして資質の向上を図ります。

(4) 公営塾の開設

町内中学生を対象として、無料で実施している公営塾を継続します。

(5) 特別支援教育サポートの継続

発達障害等で特別な支援が必要な子どものきめ細かな学習指導体制を充実します。

(6) 子ども読書活動推進のための学校司書配置

町内4校に学校司書を配置し、学校での読書活動を推進します。

(7) 本を通じた親子活動の推進

みさと本の森を、読書のみならず親子活動の拠点として利活用を推進します。

(8) スポーツ少年団の育成

スポーツ少年団の活動に対して、公共施設利用料の免除や活動補助金の交付、上位大会出場者に対して参加経費の補助を継続します。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
特別支援教育に関する研修会の実施	R3～R7年度 1回	R1年度 0回
親子読書事業の実施回数	R3～R7年度 3回	R1年度 0回

【基本目標4】 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

1. 地域コミュニティの単位・実情に応じた住民等の活動体制の構築

【現状と課題】

地域コミュニティの単位として、13連合自治会と105単位自治会があります。地域との関わりや事業推進、意見交換等において、連合自治会を重視し、長期総合計画では連合自治会ごとの地域コミュニティ計画を立てています。

小さな拠点づくりの取り組みについて、人・情報の集まり、活動の量、組織力等に違いがあり、持続可能な地域づくりのためには13連合自治会全ての推進が不可欠です。

【取り組みの方向】

(1) 「小さな拠点づくり」の推進

地域コミュニティの中核単位である全連合自治会で策定した地域コミュニティ計画（後期事業計画）の地域生活課題解決に向けた取り組みを支援し、小さな拠点づくりを推進して、地域を主体とした将来・課題解決のための取り組みを進めます。

(2) 住み続けるための仕組みづくり

持続可能な地域づくりのために、どの地域でも同じようなサービスが受けられるよう、買い物や交通等住民生活に必要な機能を確保するため、小さな拠点づくりを推進します。

(3) 高齢になっても地域で安心して暮らせる地域づくり

住民、行政、関係機関が連携して、地域ぐるみで高齢者の生活を支える体制の構築を目指します。

(4) 公民館の地域課題解決学習の実施

地域住民が自主的・主体的に学ぶ学習環境を整備し、地域の課題解決に向けた学習や地域活動を通じて、自ら地域を創っていくという自律的・主体的な意識を高め、地域を担う人づくりを推進します。

重要業績評価指標（KPI）	目標値	現状値
小さな拠点づくり計画・協議等実施地域数	R3～R7年度 13地域（連合自治会）	R1年度 7地域（連合自治会）
地域での生活支援を実施している連合自治会数	R3～R7年度 8自治会	R2年度 3自治会
公民館の「地域課題解決学習」の実施回数	R3～R7年度 16回	R1年度 10回
自主防災組織（連合自治会）での地区防災計画策定数	R3～R7年度 9地域（連合自治会）	R2年度 1地域（連合自治会）

2. 地域生活交通の確保

【現状と課題】

多くの住民は、移動手段として自家用車に強く依存していることもあり、公共交通利用者は減少し続けています。このことは減便や路線廃止という利便性の低下に繋がります。

旧三江線が担っていた交通の代替路線確保と、公共交通空白地域の解消や免許返納等により車の運転ができない高齢者、あるいは通学等の日常生活を支えるため、地域生活交通の確保が必要です。

【取り組みの方向】

(1) 美郷町公共交通ビジョンの策定

5か年計画のビジョンを策定し、公共交通の様々な課題解決に対する取り組みを具体化します。

(2) 乗合タクシー・タクシー利用助成の継続

デマンド型乗合タクシーの運行、タクシー利用助成事業の継続を行い、公共交通不便地域の解消を図ります。

(3) 公共交通運賃助成事業の継続

公共交通としての利用を促進するため、割引券の交付を継続します。

(4) 高齢者運転免許自主返納支援事業の継続

高齢者が運転免許を自主的に返納しやすい環境をつくり、返納後の代替交通への移行を支援するため、バスやタクシーの利用券を交付します。

(5) 先進技術を使った公共交通の検討

地域が抱える課題解決の手法として、自動運転技術による公共交通網の検討を行います。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
美郷町公共交通ビジョンの策定	R3～R7年度 策定	-
自動運転による公共交通網の検討・導入	R3～R7年度 導入	-

【基本目標5】 先進技術を活かした新たな美郷を創造する

1. 空の駅構想の推進

【現状と課題】

通信環境の整備や、新型コロナウイルス感染拡大防止のため外出自粛をする方が増えたことにより、インターネットやスマートフォン等で買い物をする機会が多くなりました。その影響で物流需要は増加していますが、反面、物流業界は人手不足に悩まされています。深刻化すると、配送地域の縮小が予想され、採算性の低い中山間地域への配送が削減の対象ともなりかねません。中山間地域が抱える現状に対応した方策を検討していく必要があります。

【取り組みの方向】

(1) 空の駅構想の推進

ドローンによる物流網の検討を行い、実用化に向けて実証実験等の取り組みを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
ドローンによる物流ネットワークの導入	R3～R7年度 導入	R2年度 実用化調査

2. 行政のデジタル化の推進

【現状と課題】

近年、5GやAI、IoTといった先進技術の発展は目覚ましく、国においてデジタル庁創設をはじめ行政のデジタル化の取り組みが急ピッチで進められています。美郷町においても、現在抱えている課題や今後予測される課題に対応していくために、先進技術を取り入れながら、買い物支援や遠隔診療など利便性向上に資する取り組みを進めていく必要があります。

【取り組みの方向】

(1) IP告知端末等を使った各種サービスの仕組みの構築

遠隔診療や買い物支援といった自宅に居ながら受けられるサービスの仕組みを構築し、安心して住み続けることができるまちづくりを目指します。

(2) 未来技術活用の推進に向けた取り組み

役場内に「情報・未来技術戦略課」の新設を行い、より専門化を図り、加速するICT・未来技術を活用した課題解決に取り組みます。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
IP告知端末等を使った遠隔診療システムの検討	R3～R7年度 導入	-
買い物支援サービス導入の検討	R3～R7年度 導入	-